

2025 年 5 月 15 日

各 位

会 社 名 株 式 会 社 M C J
代 表 者 名 代 表 取 締 役 社 長 兼 C O O 安 井 元 康
(スタンダード市場 コード番号: 6670)
問 合 せ 先 経 営 企 画 室 広 報 I R 担 当
ir-otoiawase@mcj.jp

当社取締役会の実効性に関する評価結果の概要について

当社は、取締役会の実効性を高め企業価値の向上を図ることを目的として、当社取締役会全体の実効性に関する評価を行いましたので、その結果の概要について下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 評価の方法

すべての取締役・監査役に対して、取締役会の実効性に関する評価の趣旨等を説明のうえ、質問票を配布し、全員からの回答により得られた結果に基づき、社外取締役及び社外監査役で構成される「諮問委員会」にて分析・評価を実施いたしました。

質問票の内容（大項目）

- ・ 取締役会の構成と運営
- ・ 経営戦略と事業戦略
- ・ 企業倫理とリスク管理
- ・ 業績モニタリングと経営陣（執行役員を含む）の評価・報酬
- ・ 株主等との対話

2. 評価結果の概要

当社取締役会は、取締役会の構成、取締役会の運営状況、社外役員を含む取締役会の十分な支援体制、株主を含めたステークホルダーとの関係等について確認した結果、現状における取締役会の実効性は十分に確保されていることを確認いたしました。

一方、当社取締役会の実効性をさらに高めるために取り組むべき課題として、諮問委員会より以下の提言を得ました。

- ・ 役員間のコミュニケーション手段については、社外役員ミーティングの継続実施や、工場視察、「ぜんどこ MCJ の森」の見学などを通じて、グループ各社の事業理解や ESG への取り組み把握に資する機会が提供され、一定の改善が見られた。一方で、役員間の意見交換や、グループ各社の経営陣とのコミュニケーション機会は依然として十分とは言えず、さらなる改善策の検討が求められる。
- ・ 持続的成長に向けた経営資源の最適配分については、新規事業創出に向けたプロジェクトが立ち上がるなど、事業ポートフォリオの見直しが進みつつあるものの、既存事業におけるグループシナジーの強化や業務の統廃合といった取り組みについては、より一層の推進が求められる。

- ・ MCJ 及びグループ各社におけるサクセッションプランや人的資本経営に関しては、新任常勤取締役の選任等、一定の進展が見られるものの、グループ間の人材交流や幹部候補者の育成といった課題は依然残されており、継続的な議論と具体的な施策の実行が必要である。
- ・ DX 推進については、想定通りに進捗していない項目も見受けられる。MCJ 及びグループ各社の戦略遂行体制を一層強化し、業務効率の向上や収益力の改善につながる具体的な取り組みを加速させるべきである。
- ・ 役員報酬の決定については、報酬制度の見直し等の対応が進められているものの、役員目標の設計や評価方法にはなお改善の余地があり、引き続き検討・対応すべき重要課題である。

3. 今後の対応

当社取締役会は、以上の提言・評価結果等を踏まえ、より実効性の高い取締役会の実現に向けた改善を、不断の努力を以って推し進めてまいります。

以上